第18章 神明後遺跡の調査

Ⅰ 遺跡の立地と環境

神明後遺跡は、東武東上線ふじみ野駅の東約300m、さかい川の谷頭部から約1,500m下った右岸に位置し、標高12~16m、現谷底との比高差は1.5mを測る。さかい川は本遺跡付近から崖を形成し始め、本遺跡をのせる南側台地は急斜面、対岸の北側は緩やかな斜面を形成している。

周辺の遺跡は、上流に中沢前遺跡、下流に浄禅寺跡 遺跡、苗間東久保遺跡が隣接し、さかい川の対岸には 富士見市の外記塚遺跡がある。

遺跡周辺は古くからの集落があり、現在でも大きな 屋敷地が多く大きな開発もなかったが、ふじみ野駅の 開設に伴い徐々に再開発が進みつつある。

本遺跡の最初の調査は1987年に大井町史編纂事業の一環として行われた。その後1993年に新駅へ延びる道路をはじめ、2015年3月現在、53ヶ所で試掘調査および発掘調査が行われている。

これまでの調査で縄文時代中期後半~後期前半の住居跡、奈良時代から平安時代の住居跡、中世の建物跡などの遺構を検出した。

Ⅱ 神明後遺跡第44地点

(1)調査の概要

調査は個人住宅建設に伴うもので、原因者より 2011年5月11日付けで「埋蔵文化財事前協議書」 がふじみ野市教育委員会に提出された。申請地は遺跡 の範囲内に位置している。申請者と協議の結果、遺構 の存在を確認するために試掘調査を実施した。

試掘調査及び本調査は2011年7月8日~13日、幅約1.5mのトレンチ3本を設定し、重機による表土除去後、人力による表面精査を行った。その結果、現地表面から約50cmの深さで落とし穴とみられるプランを確認した。

落とし穴の平面形態は楕円形で底部はオーバーハングする。規模は確認面径192×48㎝、底径178×22㎝、深さ116.6㎝である。土層の観察では縄文時代であるが、出土遺物がなく時期等確定は出来ない。

写真撮影・全測図作成等記録保存を行ったうえ埋め 戻し、調査を終了した。なお旧石器時代の確認調査は 行っていない。



第75図 神明後遺跡の地形と調査区(1/4,000)

Ⅲ 神明後遺跡第 45 地点

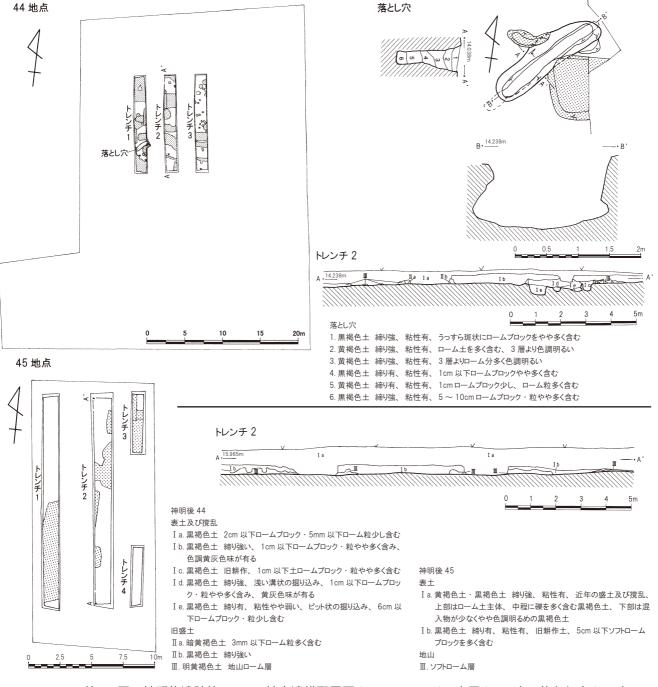
(1)調査の概要

調査は個人住宅建設に伴うもので、原因者より 2011年11月6日付けで「埋蔵文化財事前協議書」 がふじみ野市教育委員会に提出された。申請地は遺跡 の範囲内に位置している。申請者と協議の結果、遺構 の存在を確認するために試掘調査を実施した。

試掘調査は 2011 年 12 月 5 日、幅約 1 ~ 1.5 mの

トレンチ 4 本を設定し、重機による表土除去後、人力による表面精査を行った。その結果、現地表面から約 $70 \sim 90 \text{ cm}$ の深さで、地山ローム層を確認したが、遺構・遺物は確認されなかった。

写真撮影・全測図作成等記録保存を行ったうえ埋め 戻し、調査を終了した。なお旧石器時代の確認調査は 行っていない。



第 76 図 神明後遺跡第 44・45 地点遺構配置図 (1/500・1/300)、土層 (1/150)、落とし穴 (1/60)



中沢前遺跡第28地点調査風景



中沢前遺跡第28地点調査風景



神明後遺跡第 44 地点調查風景



神明後遺跡第 45 地点調查風景



中沢前遺跡第28地点調査風景



中沢前遺跡第 28 地点遺構外出土遺物 No.1



神明後遺跡第44地点落とし穴



神明後遺跡第 45 地点近景